

乱世を 生き抜くために

乱世を駆け抜けた名刀
—戦国の動乱から徳川の時代へ—
2023.1.7[土]—2.12[日]

室

町幕府の権威の低下と戦国大名の台頭で、戦が頻発していた16世紀末の日本。この時代に現れた、際立った個性を持つ武将たちのエピソードと共に、名刀が伝わっています。

元亀4年(1573)、武田軍は甲斐の虎と恐れられた武田信玄の死を極秘としていました。「自らの死を三年は隠すように…」信玄の遺言と伝わります。武田軍に属していた奥平家はこの異変に気づき、織田・徳川軍への帰参を決断します。徳川家の家臣となり配されたのは、徳川・武田が支配を争っていた三河の長篠城でした。この裏切りをうけ武田勝頼は長篠城を包囲しますが、奥平貞昌はわずかな手勢とともに城を守り抜き、織田・徳川連合軍の勝利に貢献しました。その褒美として、信長は貞昌に自らの「信」の偏諱とともに、一文字の太刀を贈ったのです。これが現在、長篠一文字と呼ばれる名刀です(上図)。そして、徳川家康は娘の亀姫を信昌(貞昌)へ嫁がせ、娘婿として重用しました。一方、武田

家はこの敗戦を期に滅亡の道へと進んだのです。

大兼光は、長身に堂々としたのたれの刃文を焼き上げた見事な太刀です。数々の名刀を収集したことでも知られる豊臣秀吉から藤堂高虎、徳川將軍家へと渡りました。秀吉は百戦錬磨の武将たちに「この男につき従おう」と思わせる人心掌握術を駆使し、関白にまで上り詰めたことはよく知られています。天正13年(1585)、家康の腹心であった石川数正は、徳川家と秀吉との交渉役をつとめるうち、秀吉側に寝返ります。一体どんな説得があったのでしょうか。家康が今川家の人質だった頃からの側近であり、徳川家の内情を熟知する数正の出奔という非常事態に、徳川軍は三河以来の軍制改革を余儀なくされ、武田流を取り入れました。この時、信昌ら徳川家に仕える旧武田家臣たちが活躍したと伝わります。

権謀術数渦巻く日々を、武将とともに駆け抜けた名刀の数々とともにご紹介します。

(学芸グループ主任 志田理子)

さのびで祝う 桃の節句

—すべての雛に心をよせて

佐野美術館でひな祭り
2023.2.18[土]—4.2[日]

佐

野美術館には、近年様々な雛が収蔵されるようになりました。女の子の初節句に悦びとともに贈られ、それぞれの家に代々伝わってきた雛人形。家族の想いの詰まった人形が、縁あって佐野美術館にやってきたことを、毎年飾る私たちも大変嬉しく思っています。

30年ほど前、佐野美術館にはお預かりしている享保雛、古今雛と雛道具があり、毎年雛の時期には展示室の一角にそれらを飾り付けました。そのわずかな展示を楽しみに来てくださるお客様もいらっしゃいました。

その後、地元ならではの雛人形の寄贈を受けたり、さらに主家に



仁杉家旧蔵雛飾り〈懸盤 二の膳〉江戸時代



古今雛 伝原舟月 江戸時代

伝わる芥子雛の段飾りをお預かりするなど、次第に雛の数も種類も増え、佐野美術館といえば雛の展示、と思っていただけになりました。

当館の雛コレクションの大きな転機は、2014年に江戸八丁堀の名物雛といわれた仁杉家旧蔵雛飾りが収蔵されたことです。これはいわ

ゆる家に伝わる雛と違い、江戸の趣味人による《Myコレクション》としての雛飾りです。何年もかけて贅沢な極小雛飾りを揃えていった強い想いが、紆余曲折を経てひとつも欠けることなく現代に伝わったのです。

これに前後して、三島の名家の檜皮葺の御殿飾り、江戸の名工原舟月作と伝わる古今雛などが寄贈され、昨年度は京都を代表する雛師のひとり初代櫻木宗甫のかわいらしいおぼこ雛も仲間に加わりました。

さあ、年に一度の佐野美術館のひな祭り、すべてのお雛様に心をよせて、皆様のご来館をお待ちしています。

(館長 坪井則子)

おぼこ雛〈内裏雛〉
初代櫻木宗甫 頭：十二世面庄
昭和6年(1931)

ミュージアムショップ

佐野美術館オリジナル新商品のご紹介



刀掛け風スタンド
小サイズ：440円(税込)
中サイズ：660円(税込)
大サイズ：880円(税込)

大好評の
トートバッグが
リニューアルして
再登場!

名物 松井江
トートバッグ 全5色
各2,500円(税込)

刀剣ポストカードを飾るのにピッタリな組み立て式スタンドです。
※ポストカード別売り110円(税込)

「佐野美術館でひな祭り」展おすすめ商品



アルテ・クルー 万華鏡根付 各550円(税込)

排水口カバー 各1,430円(税込)
抗菌加工を施した、有田焼の排水口カバー。

尚雅堂
大人のためのおりがみ
〈宝尽くし・とんぼ・さくら さくら さくら〉15cm角
各605円(税込)

「佐野美術館でひな祭り」展会期中(2/18～4/2)の販売